

実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号
管理機関 福井県
代表者名 知事 杉本 達治

1 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	さかいし そうごうせいさくぶ
管理機関名	坂井市 総合政策部
代表者職名	次長
代表者氏名	三上 寛司

ふりがな	あわらし そうぞうせんりゃくぶ せいさくこうほうか
管理機関名	あわらし 創造戦略部 政策広報課
代表者職名	課長
代表者氏名	堀江 紀幸

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	かぶしきかいしゃ ふくいぎんこう さかいちょうしてん
管理機関名	株式会社 福井銀行 坂井町支店
代表者職名	支店長
代表者氏名	竹島 久敬

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	ふくいけん
管理機関名	福井県
代表者職名	知事
代表者氏名	杉本 達治

2 指定校名

学校名 福井県立 坂井高等学校
学校長名 内藤 俊治

3 事業名

学科横断型DX研究による次世代産業人材育成体制の構築

4 事業概要

産官学が一体となって、次世代地域産業人材の育成体制を構築する。デジタルデータを活用した産業社会の急速な変革を見据え、地域の企業をよりよく知るために、1・2年生徒に企業訪問・出前授業を行い、「ふくいの産業」の学校設定教科を軸としたカリキュラム開発を進める。観光およびデザインの高度な専門知識を有する産業実務家教員による授業や各専門コースの教員が相互に他コースに入り、専門分野の基礎内容の授業を行う。さらに、企業研修を通じて、「ふくいの産業」の現状、課題、展望を学年進行で学び、自分たちの学校での学びが地域にどのようにつながることができるか、そして貢献できるかを考える。企業が抱える課題を理解し、その解決に向けて主体的に考え、地域貢献を視野に入れた課題研究へと発展させる。また、企業の最先端の施設設備での研修や実習の機会を設け、生徒自らが新しいアイデアを発見できる体験をさらに充実させる。

学科を横断した企業研修も行い、協働型の探究活動を推進し、起業家精神の育成も図っていく。また、企業、自治体、大学等の連携を強化し、生徒が地元に着定するしくみを構築する。卒業生が社会での学びを学校に環流させる双方向の連携システムの構築にも取り組む。

最終年度にあたり、令和6年度からの持続可能な事業の継承が必要と考える。産官学が一体となって、ふくいの産業の実情と魅力そして課題と展望を模索できるように、企業と学校のコンソーシアム体制を構築する。そこには、PTAの方々そして生徒代表の参加も模索していく。

CEOが中心となり、コンソーシアムの運営方法の詳細や令和6年度からの資金管理等の在り方のビジョンを示し、地域の自治体の協力を促進していく。また、CEOも授業に参画し、マイスター・ハイスクール事業の意義と産業界の変遷の速さ等、DXに関わる内容の更なる啓発にも努める。

<CEO>

・前田工織株式会社 監査役 三村 友男

<産業実務家教員>

・福井大学 国際地域学部 非常勤講師 江川 誠一（ふくいの産業 1単位）

・パレットデザイン代表 橋本 洋子（ふくいの産業 1単位）

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

学校設定教科・科目を開設している

教育課程の特例を活用している

6 事業の実施期間

契約日 ～ 令和6年3月31日

7 令和5年度の実施計画

デジタルデータを活用した産業社会の急速な変革を見据え、地域の企業のDX化や最新技術やオンリーワン技術をよりよく知るために、最終年度も1・2年生徒に企業訪問・出前授業を行う。

学校設定教科「ふくいの産業」において、校内の8つのコースの専門的な学びを他のコースに対して相互に実施することで、コースを超えた産業の探究的な学びとして実施する。また、コンソーシアムに参加した企業と連携し、企業人と教員とがワークショップ型の授業を創出する。新たなカリキュラム開発は、最終年度の「ふくいの産業」の成果をもって、コン

ソーシアムの会議、運営委員会、事業推進委員会で諮っていく。この中では、学科を横断した企業研修も行い、協働型の探究活動を推進し、起業家精神の育成も図っていく。

生徒活動概念図にあるように、各コースの企画研究（学科を横断したものや企業との連携、地域との協働）も継続的に行う。「学びに向かう指標～坂井高校スタンダード～7つの矜持」も全校生徒・教職員の共通認識のもと実践していく。

広報活動は、PR動画やPRパンフレットの完成版を広く地域に広め、また、「マイスター通信」も継続的に作成し、地域の中学校等への広報に活用する。また、地元の産業界や中学生を招いた、企画研究・課題研究発表会を実施する。

評価については、生徒の3年間の変容を捉えた上で、今後の継続へと進めていく。

<添付資料>

- ・ 令和5年度教育課程表

8 事業実施体制

意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
竹島 久敬	福井銀行坂井町支店 支店長
三上 寛司	坂井市総合政策部 次長
堀江 紀幸	あわら市創造戦略部政策広報課 課長
山崎 良成	福井県教育委員会 副部長（高校教育）
半澤 政丈	坂井市商工会 会長
赤尾 政治	あわら市商工会 会長
大久保 貢	福井大学 地域創生推進本部 教授
森川 峰幸	福井県立大学 創造農学科 教授
内藤 俊治	坂井高等学校 校長

事業実行機関の構成（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
三村 友男	前田工織株式会社 監査役 マイスター・ハイスクールCEO
市橋 憲	株式会社福井銀行坂井町支店 支店長代理
斉藤 立海	坂井市総合政策部企画政策課 課長補佐
藤田 由紀	あわら市創造戦略部政策広報課 参事
浅原 雅浩	福井大学 教育学部 教授
藁輪 美智子	福井県立大学 経営企画部 連携・研究課 課長
江川 誠一	福井大学 国際地域学部 非常勤講師 産業実務家教員
橋本 洋子	パレットデザイン代表 仁愛女子短期大学 講師 産業実務家教員
大正 公丹子	福井県教育庁高校教育課 参事
内藤 俊治	坂井高等学校 校長
島田 克久	坂井高等学校 教頭

マイスター・ハイスクールCEO、産業実務家教員が構成員の場合は、その旨「所属・職」欄に記載してください。

9 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（令和5年4月1日～6年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム開発 （ふくいの産業）	マイスターチーム並びにコンソーシアム会議で随時検討											
コンソーシアム 企業連携	総会・運営委員会を年4回実施 企業と連携し、ワークショップを含めた共同授業を行う											
「学びに向かう指 標」開発	「学びに向かう指標～坂井高校スタンダード～7つの矜持」を 全校生徒・教職員の共通認識のもと実践 年度末に「学びに向かう指標」作成グループで、必要なところを修正											
出前授業	年間を通して企業人や高度技術者による授業を実施											
企業訪問				地域企業研修 1・2年								
				グローバル研修 2年								
企画研究	各コースの専門的企画研究（コース横断研究を積極的に行う）3年 ※下記表参照											
コンソーシアム 会議		開 催	総 会						開 催			開 催
運営委員会 事業推進委員会			開 催						開 催			開 催
成果発信、成果検 証、外部評価等	本校HP、マイスター通信、PR 動画、PR パンフレット 企画研究発表会（中学生も参加）にて発信 運営委員会、コンソーシアム会議にて指導アドバイスを頂く											

※企画研究内容（各コース）

地域の絶滅危惧種の 保全活動でSDG s活 動	エチゼンダイモンジソウ、アゼオトギリに対する保全活動でSDG s活 動、勉強会、発表会の実施、ふくいSDG s パートナー登録
安心・安全で食品ロ スの低減に繋がる地 域の特産品開発	フリーズドライ装置等を活用した地域と連携した新たな商品開発 コース間連携を念頭に置いた、安心・安全、賞味期限が長い、食品ロ スの低減に繋がる等、より魅力的な農産加工品の開発と販売
機械コースの学びを 地域に還元	焼き印製作で学んだ「知識」や「技術」を生かし、製作品を寄贈する ことによる地域に貢献
ドローン技能認定制 度	知識確認テスト及び飛行能力確認シートを作成し、審査要領をクリア した認定講習受講者に対し、本校独自の技能認定を行っていく
温泉熱エネルギーの 活用	あわら温泉「芦湯」の未利用温泉熱を活用し、「ペルチェ素子」を中 心とした温泉熱エネルギーの有効活用方法の模索

～温泉熱を有効利用したSDGsに基づく持続可能な街づくりの一助～	他コースとの連携による、 ・未利用温泉熱を活用した農作物の効率的な栽培 ・地熱蒸気染めなどを利用した新たな地場産業の模索 ・温度管理を活用した魅力的な加工食品開発			
魅力ある観光地域づくりに挑戦 (情報システムコース)	あわら市観光による旅の思い出や体験を、デジタルの力でさらに高め、観光客や地域を豊かにする観光DXに挑戦する。具体的には企業と連携をし、デジタル温泉マップなどを作成する。その中でARやMRの技術を盛り込み観光地の魅力を発信できるようにする。			
地域貢献やコース連携でつながりを深める (情報システムコース)	直売所『いねす』で三年前に取り組んだ食物のロス管理システムの更新・改善を行う。また、前年度の研究内容であった本校の農業コースが利用する農業のプラットフォームアプリを通して、農業への興味・関心の向上や就農への道に進んだ生徒の実態調査を行う。			
観光資源の発信	地域観光資源の発掘・フィールドワーク	観光資源PRのホームページ作成	コマーシャル発信	
観光テキスト制作	生徒の学びをもとに、「ふくい産業～観光編～」教材を制作する。			
卒業制作発表会 ファッションショー	10月末の産業教育フェアでの発表とそれに向けた準備			
Sea級グルメ全国大会に向けての坂井市との連携活動	坂井市との打ち合わせ	ワークショップ、フィールドワーク、レシピ検討	販売会	今後に向けた検討

10 知的財産権の帰属

※いずれかに○を付すこと。なお、1.を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

- (○) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
 () 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

11 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・ 無

12 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者 ・ 免税事業者 (□で囲むこと)